

片瀬だより

令和5年9月25日 発行

編集・発行

片瀬だより編集委員会

藤沢市片瀬3丁目9番6号

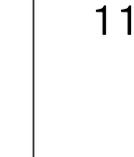
電話 29-7171

FAX 25-8907

片瀬公民館(本館)

公民館事業のお知らせ

◎申込は、すべて本館へ電話・来館(平日のみ午前8時30分〜午後5時まで)または電子申請で
 申込など、詳細は広報・地域回覧・ホームページをご確認ください。

	10月	2日(月) 午後 知笑の輪倶楽部 第3回『図書館を使いこなそう!』 20日(金) 午前 おひざの上のおはなし会	
		11月	10日(金) 午前 片瀬ライフを楽しむ『片瀬歴史ウォーキング〜片瀬の橋〜』(仮) 11日(土) 午前 Katase 男(DAN) dism への道『燻製の作れる男になる』 15日(水) 午前 楽しく子育て『えいごであそぼ!』 17日(金) 午前 おひざの上のおはなし会 18日(土) 午後 おもちゃの病院 23日(木・祝) 午前 片瀬のまちでぼうさいビンゴ!
		12月	2日(土) 午前 Katase 男(DAN) dism への道『湘南藤沢フィルムコミッション』 15日(金) 午前 おひざの上のおはなし会 16日(土) 午前 冬の子ども工作教室 午後 おもちゃの病院 20日(水) 午前 楽しく子育て『クリスマス会』

片瀬地区ふれあいまつり「片瀬でかがやく 人・夢・未来」

10月28日(土)・29日(日) 片瀬公民館・片瀬しおさいセンターで行います。講演会、サークル発表、模擬店、ワークショップ等を予定しています。

片瀬しおさいセンター

	9月	29日(金) 午後 夜のリフレッシュエクササイズ『自然の香りの中でストレッチ』	
		10月	12日(木) 午後 夜のリフレッシュエクササイズ『心とからだ ゆっくりヨガ』 19日(木) 午前 スマホお助け隊 21日(土) 午前 片瀬ライフを楽しむ『ソムリエに学ぶワイン初級講座』
			11月
12月			1日(金) 午後 夜のリフレッシュエクササイズ『脂肪燃焼! ボクシングエクササイズ』 5日(火) 午前 赤ちゃんとママのふれ愛タイム『バランスボール』 21日(木) 午前 スマホお助け隊

江の島は教材の宝庫⑥ 拡大版
「江の島の植物」

鹿児島 英克

今回は植物をテーマに特集します。

◆海浜性植物を探そう

江の島を歩くと「海浜性植物」と呼ばれる草花を見つけることができます。高山の厳しい環境に適合した植物が高山植物であるのなら、海浜の厳しい環境に適合した植物が海浜性植物です。適合するために、たとえば他の植物より葉が肉厚で乾燥に強いつくりをしているなど特徴があります。そのいくつかを紹介しましょう。

★ラセイタソウ

葉の表面が織物のラシヤに似たラセイタ(ポルトガル語)のようだといいことでこう呼ばれます。石垣の隙間などから生えていることが多いので、見つけたら触ってみてください。一度触るときつとその特徴が忘れられないと思います。



★ツワブキ

江の島を含め多くの場所で見られます。フキの形をしています。葉の表面に光沢があつて肉厚です。海浜性植物に多くある特徴を備えています。秋から冬にかけては黄色い花をつけます。



★ハマヒルガオ

センタープロムナード(江の島ヨットハーバー付近)でよく見られます。朝顔に似た小さな花をつけますが、葉は丸くて肉厚です。ほかの海浜性植物と同様に、濃い塩分、強風、乾燥など厳しい環境に



適応しています。種子の内部に空洞があり、水に浮くことができるため種子が海流に乗って広がるができます。

★トベラ

これもセンタープロムナードでよく見られる低木です。葉が肉厚で丸く反っている様子が見られます。初夏に白い花を咲かせます。



◆タブノキを探そう

江の島は温暖な気候のため、常緑樹が多く、冬でも江の島は緑が多く見られます。「みどりの江の島」と言われる理由です。ほかにクヌスノキ、スダジイなどがよく見られますが、温暖な気候での常緑樹としては、タブノキがエースです。表



参道ルートの中津宮より少し手前には江の島で一番大きいとされるタブノキがあります。そばで見上げて、樹木の大きさを感じてください。

◆気候に合わせて生息している植物を観察しよう

海浜性の厳しい環境に適応した草花や、温暖な気候に合わせて生息している樹木など、江の島の気候に合った植物を多く観察することができます。同じ藤沢市でも内陸部に比べるとその違いははっきりとわかるのではないのでしょうか。そんな植物たちを探しながら江の島を歩いてみると、新しい発見もあるかと思えます。

片瀬の老舗を訪ねて⑩

「株式会社 中村屋羊羹店」

今回は、観光客が戻り、賑わいが戻った江の島の老舗「和菓子の中村屋羊羹店」を訪ね、4代目の中村憲昌さんにお話しを伺いました。

「江戸時代後期から明治時代には江の島の漁師町で「傳左(でんざ)」という駄菓子屋を営んでいました。明治35年、現在の「御岩屋道通り山二ツ」の所に店舗を構え、当家3代目が弁天様を御信仰なされるお客様方の「おみやげ」として「弁天海苔やうかん」を売り出したのが元祖海苔羊羹幣舗の起源です。店では羊羹4種類の他に、女夫饅頭など江の島らしい和菓子を販売しています。

名物海苔羊羹は多くの博覧会等で表彰され、平成6年の第22回全国菓子大博覧会では最高位の名誉総裁賞を受賞しました。

近年、海外から訪れた人たちに一口サイズの羊羹を売り出したところ、大変好評でお土産に購入するお客さんが増えたそうです。また3年前に参道を挟んだ場所に「中村屋本店茶房」が開店し、羊羹店ならではのメニューを楽しむことができます。

憲昌さんは「菓子作りには正解がないので、毎日が真剣勝負です。材料を吟味して伝統の味を守りたいと思います。また、江の島に古くからあるお店が少なくなりましたが、新しく移住してきた方たちも少なくありません。新旧のつながりを大切にして、江の島を盛り上げていきたい」とのお話が強く印象に残りました。



4代目 中村憲昌さん



中村羊羹店



お客様からの葉書



店先の様子

10月28日(土)片瀬地区ふれあいまつりで、川地啓文氏、「みどりらんまん」牧野富太郎も訪れた江の島の植物について、「の講演会を予定しております。ぜひ来館ください。」

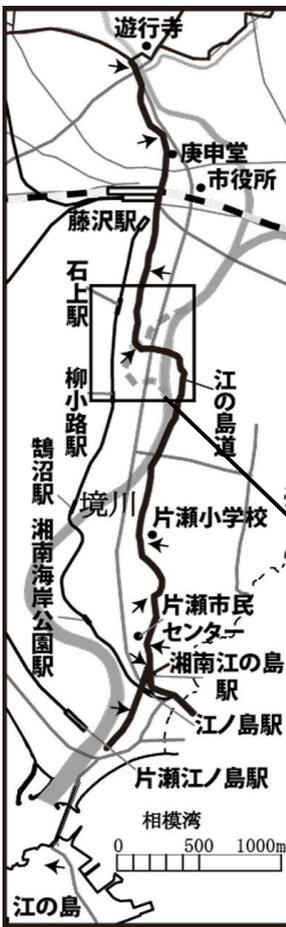
江の島道をめぐる③

「渡し」の地蔵

現在の江の島に向かう道を遊行寺から南下してくると鵜沼地区と片瀬地区との境辺りで東に大きく曲がります。実は以前の境川はこの辺りから蓮池辺りまで大きく西に回り込んでいたのです。

今から5500年前の縄文時代には、現在より10m程度海面が高く、藤沢市南部は海の底でした。そしてこの縄文海進以降北側から徐々に陸地化していく中で、現在の海岸線が形成されていきましたが、川袋辺りは標高が低く、湾として残っていたようです。それが、西から海岸近くを流れる沿岸流によって運ばれた砂が入り江の口をふさぎ、沼となり、その沼も鎌倉時代くらいには干上がったって低湿地となっていたようです。

この低湿地を流れる境川は何度も氾濫を繰り返し、そして大正6(1917)年の氾濫により今の流路となったようです。



昔の片瀬川の流路

元々、上流部を高倉川、下流部を固瀬川(かたせがわ)と呼んでいたこの川を秀吉の太閤見地の際、相模と武蔵の国境として、境川と呼ぶようになりしました。

片瀬地区は昭和22(1947)年に鎌倉市から藤沢市に合併したのですが、それまでの境界線が川袋地区辺りで屈曲しているのがこの表れではないかと言っています。片瀬は明治初期まで船運の拠点で、この川袋まで川舟がさかのぼることができたそうです。

江戸時代の江の島道を紹介する『江嶋道見取絵図』にも、この蛇行部分とそこに石上の渡しが描かれており、その傍らに渡し之地蔵と呼ばれた石上地蔵も描かれています。

現在もこの地蔵尊塔は大切に管理されており、脇には丁寧な説明文が添えられています。

それによると、こちらの地蔵尊塔は承応4(1655)年に建立されたもので、現存する石仏としては鵜沼で最古の石仏で、市内に現存する石仏としてもかなり古いものとなります。また銘文には「奉造立地蔵尊三界万霊七世父母爲」と彫られているようで「この世に生命あるあらゆるもの、そして先祖代々の霊を弔うために造立されたようです。」

ここを東に進み、国道467号線を渡ると境川が見えてきます。

今回は藤沢市教育文化センター刊行の『水のしらべ』(2001)『身近な川と水辺 藤沢の自然6』(2007)などを参考にいたしました。



鵜沼最古の石仏「石上地蔵」

「江の島天王祭」



八坂神社



御祭神や旧称について記されています。

「江の島天王祭」が7月9日行われました。

「かながわの祭50選」の一つで藤沢市重要無形民俗文化財に指定されています。

天王祭は、江島神社の末社八坂神社(江ノ島天王社)の例祭で、対岸の腰越の小動神社と同時開催され、八坂神社の神輿が海上渡御した後、海を渡り、小動神社の神輿と行合います。

御神体である建速須佐之男命(たけはやさのおのみこと)の木像は、初め腰越の小動人神社にて祀られていましたが、大波により海に流され、のちに江の島の漁師によって海中から引き揚げられ、島内で祀られる男神の御神体を、女神に合わせ、ため神輿が海を渡るようになったと伝えられています。この伝承を再現するのが「江の島天王祭」で行合祭(ゆきあいまつり)とも言われます。

神輿が海を練り歩く海上渡御は、新型コロナウイルスの影響で、2019年以来4年ぶりに開催されました。

ふるさと片瀬く今昔あれこれ④

「百葉箱」の思い出

中村 喬

片瀬中学校が秩父宮体育館の北隣にあつたと言っても知らない人が増えた。昭和二十二年の開校当時、東京螺子工場の建物を利用しての校舎であつた。第一校舎は平屋建てで三角屋根の玄関を入ると右側に職員室や校長室があつた。左側には尋常高等小学校の名残の教室が置かれていたようだった。私たち新制中学校の生徒達は第一校舎の北側に並ぶ第二校舎、第三校舎で学んだ。

玄関前の広場には百葉箱があつて、白い木の柵で囲われていた。百葉箱の中には温度計だけでなく、乾湿計や気圧の計測器もあつたように記憶している。地表には管が埋まつていて地中の温度も計測していた。雨量計もあつた。私たち生徒が毎日交替でデータをとり、記録を重ねた。この記録は当時の気象庁にも貴重なものとして喜ばれたという。当時理科を担当していたらうしやうたの諏訪雅珍先生から後になって聞くことができた。その諏訪先生が昭和三十年三月に作詞・作曲し発表された歌が残っている。この年は私たち片瀬中学校七期生が巣立つた時である。「思い出」と題された歌は四番まで歌詞がある。

片瀬の山の白百合が
ほんのり咲く頃思い出の
歌う河辺のコーラスに
柳もささやく堤かけ

夏、片瀬の山に入ればあちこちに百合が咲いていた。校庭の傍を流れる境川の岸辺には護岸樹として植えられた柳の木があつた。
この時代夏の気温が三十五度に達することはなかった。冬は今よりは寒く、氷が張った田んぼでスケートをして遊んだ。
スケートと言えば、学校の近くにローリースケート場ができたりもした。
懐かしい思い出である。

【百合の山登れば海の迫り上がる】



令和5年 夏休み中の片瀬中学校 道子

片瀬市民図書室からのご案内

電話28-6935

市内に在住、在勤、在学の方ならどなたでも、一人10冊まで2週間借りられます。

〈開室時間〉

火・日曜日
午前10時～午後5時

《新刊案内》

- 「図書館のお夜食」 原田ひ香
- 「縁切り上等」 新川帆立
- 「この夏の星を見る」 辻村深月

- 「それは誠」 典代雄介
- 「獣の夜」 森絵都
- 「うたわなない女はいない」 働く三十六歌仙
- 「インドカレーのきほん、完全レシピ」

- 「神奈川県の子」 日帰り山歩き
- 「いいこと考えた！」 林真理子
- 「ハンチバック」 市川沙央
- 「ぼくはあと何回、満月を見るだろう」 坂本龍一
- 「木挽町のあだ討ち」 永井沙耶子

のぞいてみよう！公民館

「おもちゃの病院」

毎月第3土曜日の午後、片瀬公民館でおもちゃを直してくれる方たちがいます。部品代は実費負担ですが、無償で、お気に入りや思い出の詰まったおもちゃをボランティアの方たちが、一つずつ丁寧に直してくれます。



その場で直らず入院やどうしても直らない場合もありますが、物がたくさんある時代だからこそ壊れても捨てずに大切に使用して欲しい。ボランティアさんの優しい気持ちで成り立っている公民館事業です。
ご自宅に眠っている壊れたおもちゃはありませんか？
10月28日土曜日の午後、ふれあいまつりでもお待ちしています。

編集後記

今年5月にコロナウイルス対応が緩和され、少しずつ日常に戻ってきている。7月には江の島天王祭、8月には片瀬諏訪神社例大祭、9月には龍口寺の法難会がそれぞれ以前のように開催された。そして60年に一度開催される、江の島弁財天に縁のある鎌倉円覚寺洪鐘祭(おおがねまつり)がこの10月に開催される予定だ。いかにも、歴史と共に歩む片瀬ならではの風情である。

(M)